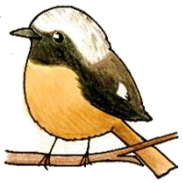
公益財団法人 日本野鳥の会
Wild Bird Society of Japan

探鳥会スタッフ通信

2019年
1月号



「探鳥会スタッフ通信」は、探鳥会の考え方や様々な運営手法について、全国の連携団体の探鳥会リーダーの皆様と情報交換を行うための通信です。

目 次

◆特集「初心者向けバードウォッチング」③　1
（神奈川支部、東京、千葉県、大阪支部、埼玉、滋賀）
◆普及室からのお知らせ・・・・・・・・・・13
・探鳥会リーダーズフォーラム in 東北」申し込みありがとうございました。
◆探鳥会保険集計結果・・・・・・・・・・・14
（2018年11月分）
◆今月の購読者数・・・・・・・・・・・・・16
◆探鳥会スタッフ通信の無料配信について・17
◆編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・17

■特集・初心者向けバードウォッチング③■

今月号では、以下の6回の「初心者向けバードウォッチング」（表1）について紹介します。

表1.

実施日	支部	実施場所	
2018/11/25（日）	神奈川支部	横浜市旭区	こども自然公園
2018/12/1（土）	東京	千代田区	日比谷公園
	千葉県	松戸市	江戸川河川敷
2018/12/2（日）	大阪支部	豊中市	服部緑地
2018/12/8（土）	埼玉	さいたま市	大宮公園
	滋賀	甲賀市	甲南の里山

◆ビギナーズ歓迎！紅葉の都市公園で冬鳥を見つけよう（神奈川支部）

【日程】2018年11月25日（日）9:00～11:30
【場所】こども自然公園（神奈川県横浜市）
【天候】晴れ
【参加者】64名（うち一般参加者56名）
【リーダー】14名、財団職員2名
【広報】
＜インターネット＞財団HP／Facebook／twitter
＜メール＞一斉メール送信（10/1～5、全国約60,000名に送信）
＜チラシ＞「探鳥会のご案内」（10月初旬から全国約65,000名に送付）

■探鳥会の概要■

神奈川支部は、広いエリアをカバーするために、地域のグループと連携した活動を展開しています。定例探鳥会についても地域グループと支部との共催の形で実施しているものがあります。

今回の探鳥会は、その連携グループの一つであり、主に県央部で活動している「ふれあい自然探鳥会」の後援で開催されました。当日はふれあい自然探鳥会のリーダーが探鳥会を担当されました。今回は事前申込みで、43組78名もの申し込みがあり、その中から64名の方が参加されました。

ふれあい自然探鳥会では、これまでに4回の初心者向けの探鳥会を開催し、合計28名のお試し入会があります。

開催場所であるこども自然公園は、森や田んぼ、池など様々な環境が集まる公園です。探鳥会のコースは、まず池で水鳥を観察してから、田んぼ、林を通って集合場所に戻る、というものでした。

■探鳥会の様子■

64名の参加者に対し、リーダーは14名でした。受付の際は、事前に各リーダーが名簿の記入、参加費の徴収、双眼鏡の貸し出しなどの役割を分担していたため、大変スムーズに行われました。

はじめの挨拶と、探鳥会の流れなどの案内をしてから、あらかじめ設定していた6つのグループに分かれて出発しました。グループが1か所に集中し、通行の妨げになってしまうことの無いように、まずはグループごとに違う場所まで移動してから、観察をスタートしました。

まずは池でキンクロハジロなどのカモをじっくりと観察。そろそろ場所を移動しようとしていたところで、1人のリーダーがカワセミを発見しました。グループ内の参加者はもちろん、入れ違いで池に来た他のグループの方々も、とても喜んで観察しました。リーダーの人数が多いことで、観察できる野鳥も増えるのだと感じました。

また、コースの途中には、野鳥の写真を撮影しているカメラマンがいるとのことでした。リーダーは、カメラマンの方々がいる場所の手前で、カメラマンの近くでは静かに観察しましょう、と参加者に呼びかけていました。カメラマンの方々は探鳥会が開催されることをあらかじめ知っており、挨拶すると笑顔で応えていただきました。

▲池での観察の様子

探鳥会の終盤では、実をつけた柿の木の林で観察しました。柿の実をついばむツグミやメジロなどを、比較的近くからゆっくり観察することができました。そのため、今までなかなか双眼鏡で鳥を見ることができていなかった参加者も、自分の双眼鏡でしっかりと見ることができていて、

「本当にかわいいですね。」

と嬉しそうに仰っていました。改めて、初心者対象の探鳥会を開催する際に、鳥が見やすいコースを設定することの大切さを感じました。

探鳥会終了時刻の30分前には、すべてのグループが集合場所に集まり、探鳥会のまとめを行いました。見られた野鳥の確認をした後で、今回の探鳥会の主担当のリーダーが、入会の勧誘を行いました。日本野鳥の会は、日本最大の自然保護団体であることを伝え、日本の自然を守るためにぜひ仲間になってほしい、と呼びかけました。また、バードウォッチングは誰でも楽しめる趣味であり、人によって様々な楽しみ方があることも伝えていました。探鳥会の終了後、2名の方からお試し入会の申込みがありました。

■参加者の声■

30代くらいの女性：もともと鳥が好きで、バードウォッチングにも興味がありました。なかなかバードウォッチングを始めるきっかけが無かったのですが、今回は自宅に近い場所での開催だったため参加してみました。

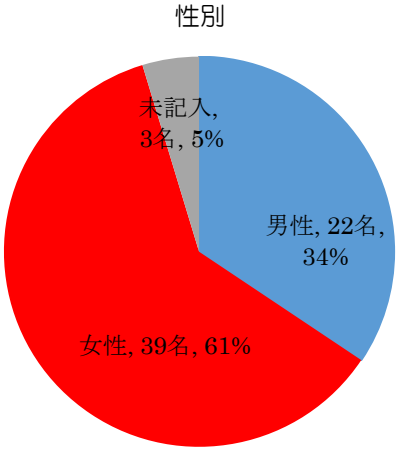
■まとめ■

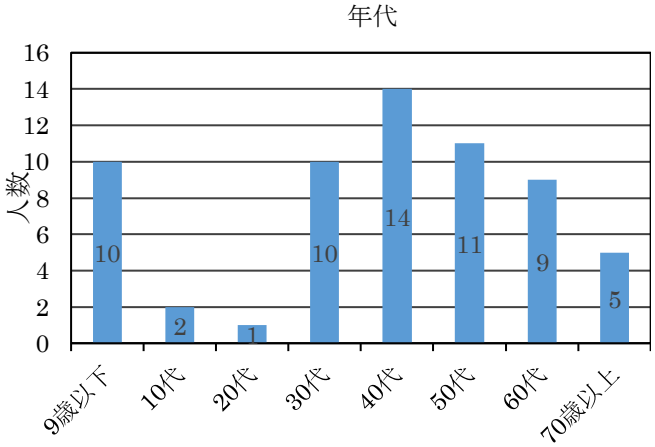
主担当のリーダーからコメントをいただきました。今後は参加者を30名程度に絞ってコミュニケーションを密にとることや、探鳥の途中にも勧誘につながる話題を増やすことで、お試し入会者を増やしていきたい、とのことです。

毎回様々な工夫を重ねて開催される「ふれあい自然探鳥会」による初心者向けバードウォッチングは、次は2月23日に開催される予定です。

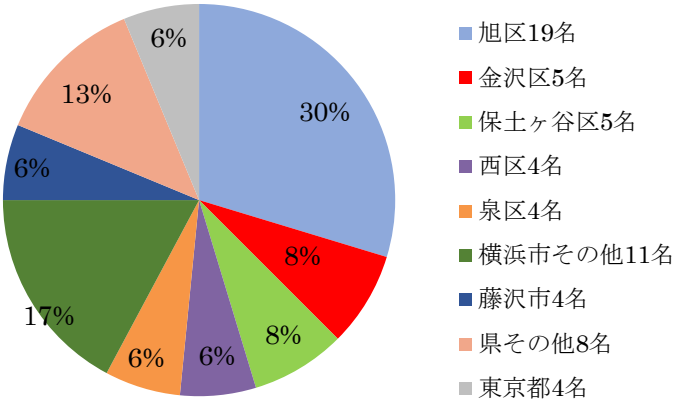
（普及室／井上奈津美）

■探鳥会データ■

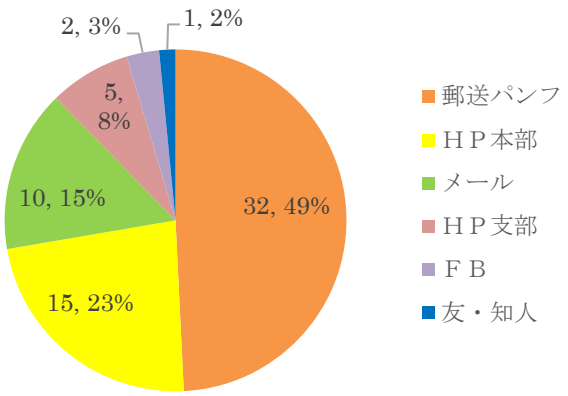




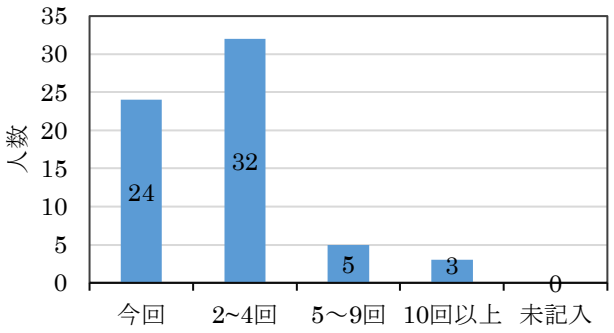
居住区



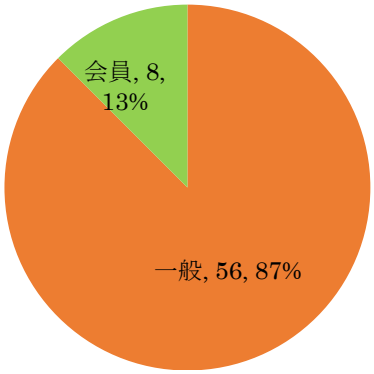
認知経緯



参加回数



会員・非会員



◆江戸川ビギナーズ探鳥会（千葉県）

【日程】2018 年 12 月 1 日（日）9:00～11:30
【場所】江戸川河川敷（千葉県松戸市）
【天候】晴れ
【参加者】25 名（うち一般参加者 22 名）
【リーダー】9 名、財団職員 1 名
【広報】
＜インターネット＞財団 HP／Facebook／twitter
＜メール＞一斉メール送信（10/1～5、全国約 60,000 名に送信）
＜チラシ＞「探鳥会のご案内」（10 月初旬から全国約 65,000 名に送付）

今回の会場の江戸川は、千葉県を中心に埼玉県、東京都にまたがった一級河川で、見晴らしの良い野鳥観察スポットです。

今年の関東は暖冬とあって、早朝は冷え込んだものの、探鳥会中は温かい日差しが差し込む陽気となりました。

リーダー9 名と、財団本部から 1 名が集合場所の松戸駅前駐車場で合流。参加者の受付では、名簿カードを記入いただいた後に「おさんぽ鳥図鑑」（体験入会の案内を挟み込み）を配布。双眼鏡がない参加者向けにリーダーが用意した双眼鏡貸出しを行い、6 名に貸し出しました。地元新聞への広報を今年は行うことができなかったとのことですが、参加者は 24 名とまずまずの集客でした。

■探鳥会の様子■

探鳥会では、初めにメインのリーダー（副会長）から駅前でルートの説明が行われました。今回は駅前から松戸神社まで移動し、松戸川を経由して江戸川へ向かいます。

市街地を抜けて松戸神社でトイレ休憩後、２つにグループ分けを行いました。道中、参加した方にお話を伺うと、すでに会員の方、元会員で久しぶりに探鳥会に参加した方、他の初心者向け探鳥会に何度か参加したことがある方がいらっしゃいました。

江戸川に到着し、リーダーが最初に見つけた鳥はツグミ。赤い実のなる低木の陰に、ひっそりととまっている 1 羽のツグミとその周辺で数羽のカワラヒワが飛来する様子を観察しました。

▲探鳥会の様子

水鳥では、最近数を増やしているカンムリカイツブリとオオバンが姿を現しました。オオバンの群れが川岸の水路を渡ってきたため、あの大きな足の観察ができました。後半に松戸川でバン（幼鳥）が出たので、この日は 2 種のバンを比較できました。

その後、スズメが群れでススキの穂を食べている様子を観察したり、突如カワセミが川を横切り歓声があがり、たまたま居合わせた地元の子どもたちも集まってきたりと楽しい観察の時間を過ごしました。最後は、帰り道に川の反対岸、遠方のビルの上にハヤブサの影を確認。今回で唯一の猛禽でした。

この日に確認できた野鳥は合わせて 23 種類。最後の解散時には、参加者プレゼントとしてオリジナルの野鳥写真をお配りしました。

■参加者の声■

参加者に今回参加した動機を伺いました。

・日本野鳥の会東京に所属している会員の方（女性 60 代）江戸川には何度も訪れていたが、自分で探すことができないので参加しました。

・江戸川の近くに住んでいる方（男性 50 代）夏にツバメが草を持って飛んでいる姿をカメラに収めてから、野鳥の写真をとることが趣味になりました。今日も探鳥会が終わった後に残って江戸川で写真をとろうと思います。

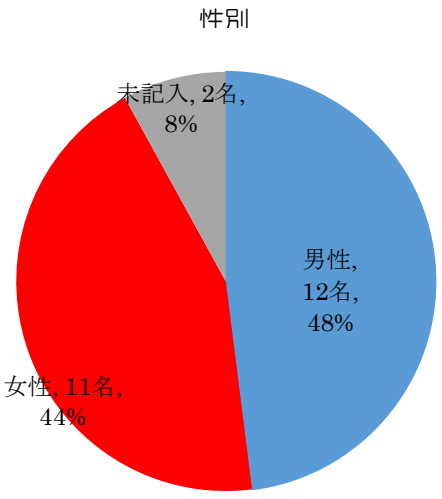
■まとめ■

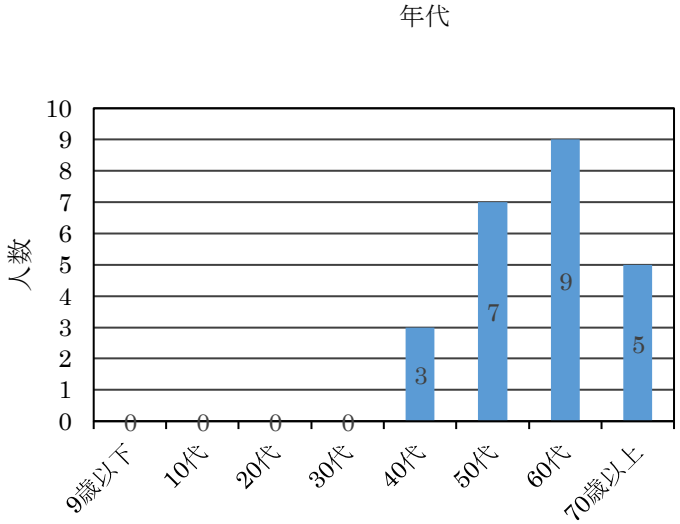
探鳥会中は、代表的な冬鳥と水鳥を観察することができ、参加者は暖かい日差しの中で時間をかけて鳥を観察することを楽しんだ印象です。しかしリーダーの方からは、「草原の鳥がもう少し出てほしかった」「中級の人にはもう少し種数がいればよかった」「次の開催に向けてルートを見直したい」といった意見がありました。

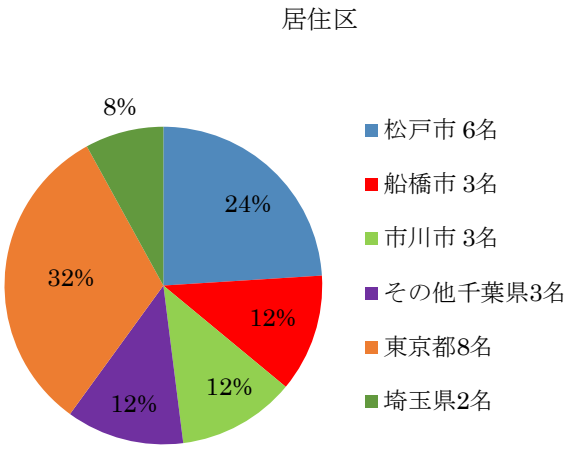
初心者向け探鳥会の参加者の中には、慣れるまで同じエリアの探鳥会に繰り返し参加する方もいると見受けられます。そういった参加者のことを考えると、次の探鳥会では別ルートを回って新しい鳥を開拓し、鳥を探す面白さを感じてもらえる機会になっていけば良いなと思いました。

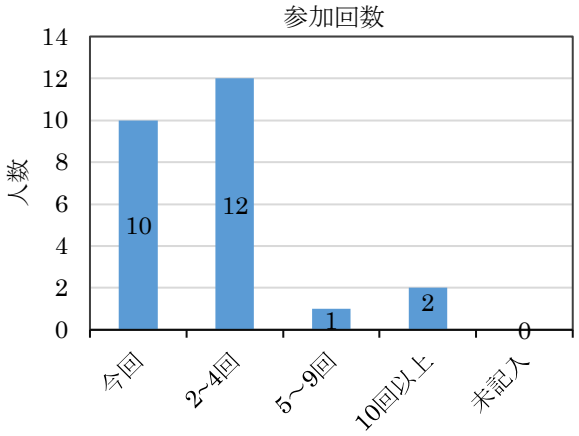
（普及室/房南都子）

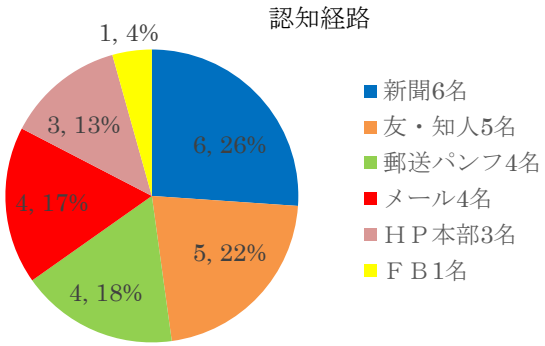
■探鳥会データ■

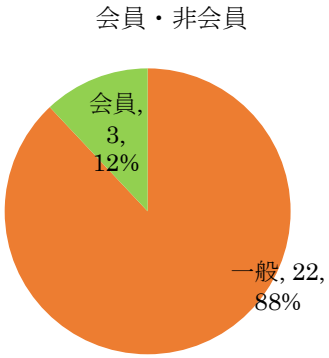












◆はじめてみませんか？バードウォッチング（埼玉）

【日程】2018 年 12 月 8 日（土）10:00～12:00
【場所】大宮公園（埼玉県大宮市）
【天候】晴れ
【参加者】14 名（うち一般参加者 11 名　不明 3 名）
【リーダー】10 名、財団職員 2 名
【広報】
　＜インターネット＞財団 HP／Facebook／twitter
　＜メール＞一斉メール送信（10/1～5、全国約 60,000 名に送信）
　＜チラシ＞「探鳥会のご案内」（10 月初旬から全国約 65,000 名に送付）

2018年12月8日、日本野鳥の会埼玉が大宮公園で開催した初心者向け探鳥会に財団本部より2名で同行しました。大宮公園は埼玉県の鳥・シラコバトを飼育している小動物園、児童遊園地、博物館が隣接しており、家族連れにおすすめの探鳥スポットです。

当日は、曇り時々晴れ。公園は落ち葉が目立ち、冬らしさが立ち込めていました。リーダー(10名)は先立って集合場所の大宮公園駅前で合流。親子連れの参加が予想されたため、メジロの着ぐるみを 2名が装着して待機。参加者の受付では、名簿カードを記入いただいた後にグループごとに徒歩3分ほど先の公園まで順次案内しました。待ち時間を使い、参加者に当会貸し出しの双眼鏡を 13 名にお渡ししました。当日の参加者は、14 名、うち子どもの参加が 4 名でした。

■探鳥会の様子■

始めにメインリーダーから挨拶があり、「おさんぽ鳥図鑑」と鳥合わせ表が配布されました。続けて

双眼鏡の使い方とルートの説明を行い、公園の散策がはじまりました。ボート池には早速オナガガモ、オオバン、キンクロハジロ、カルガモなどが集まっており、餌付けされているのか、私たちに向かって泳いできました。

カワセミも目撃されるというこの池は、かつてヨシ原があり今より鳥の数も多かったと聞きました。果たして今日、姿を現してくれるか…と期待したところ、向こう側の岸辺に小さく青い姿が見えました。皆で双眼鏡や望遠鏡を手に追いかけていると、カワセミはこちらの茂みまで渡ってくるやいなや、右から左へと目前を一直線に飛んでいく大サービスぶり。トイレ休憩中、カイツブリが潜水したり出たりする様子が見られ、続けて茂みに隠れていくバンの姿を見ることができました。

その後、池周辺の小道を歩いて小鳥を探しました。

▲探鳥会の様子

この日はあいにく他の小鳥はあまり姿を現しませんでしたが、そんな中、林の中で一声、オオタカの声が大きく“キョキョキョ” と響き、参加者の好奇心を誘いました。最後、事前配布の鳥合わせシートで確認したところ全部で約20 種類ほどの鳥を確認しました。

お試し入会は埼玉では無料で実施しているとのことで、入会後はビギナーのリボン付き名札が渡されます。また、今日の参加者へのプレゼントとしてオリジナルのエナガのしおりが配布されました。こちらはリーダーのご家族の手作り、思い出に残るお土産になったようです。

■参加者の声■

・東京からの参加者 （女性 3 名 20～30 代）職場の同僚を連れて 3 名で参加しにきました。探鳥会は、野鳥の会公式サイトの初心者向け探鳥会案内のページで知りました。カイツブリが好きなので、今日見ることが出来て良かった。ヒナを背中にのせた姿をいつか見てみたい。

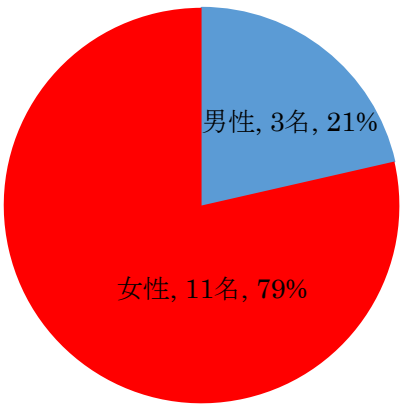
■参加者の減少について■

今回の探鳥会の参加者数は14名と、昨年同時期に開催した探鳥会参加者数（約 90 名）に比べて大きく減少しました。減少した原因ははっきりとはわかりませんが、反省会では昨年より都内や県内の初心者向け探鳥会の回数が増えたため、参加者が分散したのではと推測されまていました。次回以降の動向を見ていく必要がありそうです。

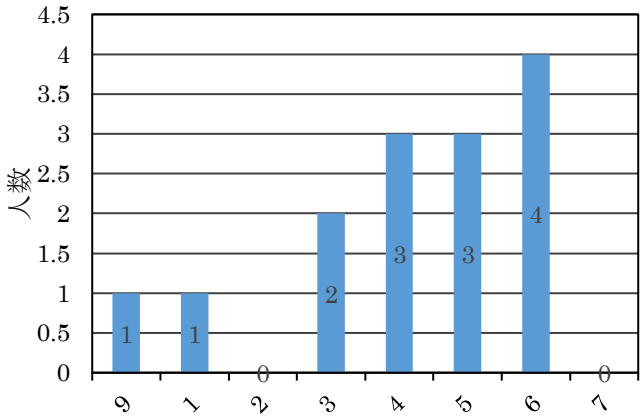
（普及室/房 南都子）

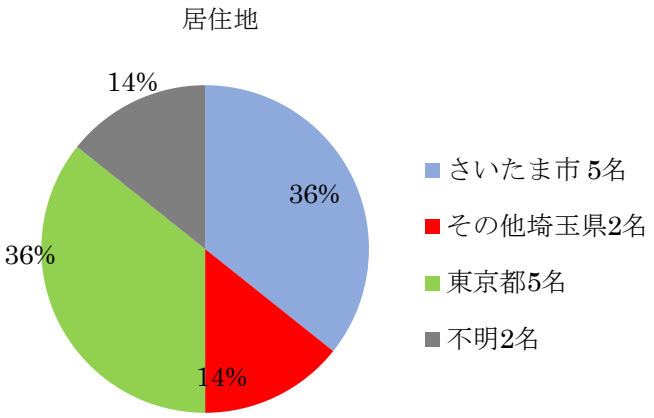
■探鳥会データ

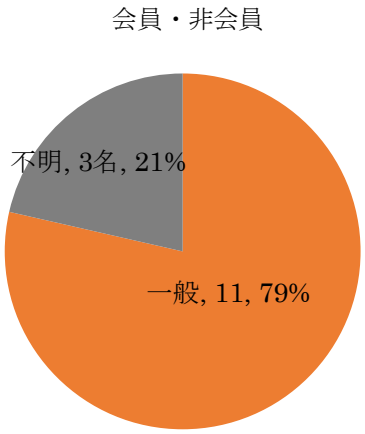
性別

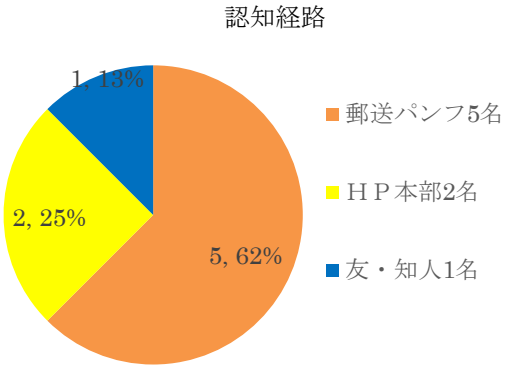


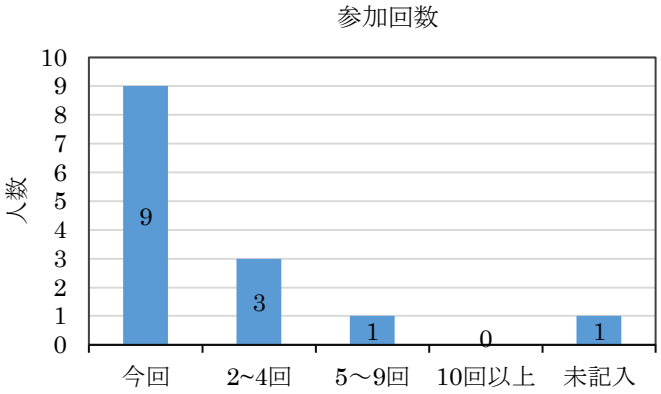
年代











◆「日比谷公園とお濠でバードウォッチング」（東京）

【日程】2018 年 12 月 1 日（土）10:00～12:00
【場所】日比谷公園、皇居日比谷濠（東京都千代田区）
【天候】晴れ
【参加者】61 名（うち一般参加者 61 名）
【リーダー】8 名、財団職員 1 名
【参加費】　一組 1,000 円（お試し入会費用）＋200 円／人（参加費）
【広報】
　＜インターネット＞財団 HP／Facebook／twitter／LINE
　＜メール＞一斉メール送信（10/1～5、全国約 60,000 名に送信）
　＜チラシ＞「探鳥会のご案内」（10 月初旬から全国約 65,000 名に送付）

■「お試し入会付」探鳥会　第2回目■
　日本野鳥の会東京では、今年度、11月から3月の毎月1回、計5回の初心者向けバードウォッチングを開催します。今回は、その2回目となりました。
　一連の5回の探鳥会は、全て「お試し入会付」とされ、参加費にお試し入会の費用が含まれているのが特徴です。
　なお、全体の流れは、2018年11月23日開催の第1回目と同様です。「探鳥会スタッフ通信」12月号に報告が掲載されていますので、あわせてご覧ください。
https://www.wbsj.org/info/shibu/tancho/staff201812.pdf
■探鳥会の様子■
　今回は、定員30名のところ、42組71名の申

し込みがありました。抽選で38組64名を当選とし、当日は37組61名の方々が参加しました。

10時に日比谷公園の入口に集合し、皇居のお濠と公園内の池や林を巡るコースを1時間半ほど歩いてバードウォッチングをしました。最後に鳥あわせと定例探鳥会の案内し終了、という流れで進行しました。リーダーのみなさんの案内からは、「目の前にいる見やすい鳥を丁寧に観察」という意識が感じられ、カルガモやキンクロハジロ、ゴイサギなどを、全員がよく見えるまでゆっくりと時間を取って観察していました。

▲御堀端での観察

前回の反省点として、「大人は望遠鏡をのぞくときに子どもに遠慮しがちなので、親子と大人のみの参加者を分けてみては？」という意見があがっていたため、参加者の班分けの際に、親子のみの班が作られました。

その結果、大人も子どもも気兼ねなく望遠鏡をのぞいたり、リーダーに質問したりでき、全体がとても良い雰囲気でした。最後には、ある子どもから「もう終わっちゃうの？」という嘆きの声がでるほどでした。

前回と同様に、終了後も、定例探鳥会の様子、双眼鏡や図鑑の選び方などを、参加者が個別にリーダーにたずねる光景があちこちで見られました。

■参加者の声■

・このような都心で、たくさんの鳥が見られたことに、とても驚きました。うちの近くでも鳥を探してみたくなりました。(50代女性)

・普段何気なく見ている鳥でも望遠鏡で見ると新しい発見があり、感動しました！（40代女性）

■反省を次に生かしてスピード改善■

終了後リーダーからは、「(配り易いように参加者を五十音順に並べてあった）領収書の束を落としてしまい、ばらけて順番が分からなくなった。束ね方を工夫しては？」「今回と違って、定例探鳥会は事前申込みが必要ないことをきちんと説明した方が良い」など、具体的な改善点があげられました。それらの意見は、早速、翌月の開催時に反映されることになりました。

毎回同じ場所で同じ段取りで開催されるため、課題を見つけ、改善案を試す、というサイクルが作り易く、探鳥会の迅速なブラッシュアップにつながると思いました。

■大きな成果が支部にフィードバック■

普段の定例探鳥会に加えて、月一回の初心者向けバードウォッチングを5か月間開催することは、運営するリーダーのみなさんにとっては大変な労力が求められることと思われます。事前申込による名簿の管理や入会手続き、経理処理など、事前事後の作業も多くあります。

しかし、毎回定員を超える多くの参加者が集まっており、多くの参加者から、楽しかった、もっと鳥が見たくなった、定例探鳥会に行きたいという感想が聞かれています。また、５回で計100名以上のお試し入会者が生まれるという成果もあります。

このような今後につながる成果が目に見えることは、リーダーの皆さんの大きなやりがいにつながり、初心者向けバードウォッチングから定例探鳥会へと、よい影響が広がっていくのではと感じました。

■お試し入会付探鳥会について■

今年度からの東京の新しい取り組み「お試し入会付探鳥会」は、東京では参加者から違和感なく受け入れられているようです。参加費が通常の探鳥会より高額ですが、その分、より強い興味を持って参加する方が多いように見受けられます。

東京は人口が多く、探鳥会に 100 名規模の参加者が集まる土壌があります。そのような背景があるからこそ、効果を発揮する手法と考えられました。今後、この探鳥会を通してお試し入会した方の動向に注目していきたいと思います。

（普及室／江面康子）

◆「はじめての鳥見たい(隊)！in 服部緑地公園」（大阪支部）

【日程】2018 年 12 月 2 日（日）9:30～12:00
【場所】服部緑地（大阪府豊中市）
【天候】晴れ
【参加者】47 名（うち一般参加者 40 名）
【リーダー】11 名、財団職員 1 名
【広報】
＜インターネット＞支部 HP／Facebook 、財団 HP／Facebook／twitter
＜メール＞一斉メール送信（10/1～5、全国約 60,000 名に送信）
＜チラシ＞「探鳥会のご案内」（10 月初旬から全国約 65,000 名に送付）

■探鳥会の導入で 40 分が経過■

服部緑地は、大阪 4 大緑地の一つ。街中に緑が少ないといわれる大阪で、都市に潤いをもたらしている貴重な緑地です。

大阪支部では、この服部緑地で 1993 年から定例探鳥会を開催してきましたが、今回は同じフィールドで初心者向けバードウォッチングを開催しました。定例探鳥会とは別日程で、11 人のリーダーを擁しての開催でした。

最寄り駅から緑地までの間は約 200m の緑道でつながれており、その緑道の入り口が今回の集合場所でした。集合場所で待っていると駅ビルのある方向から続々と参加者が集まってきます。そうして 47 名の参加者が受付を済ませた後、双眼鏡のレクチャーを受けながら開始時間を待ちました。

開始時間になり、支部長のあいさつで探鳥会が始まりました。続いて探鳥会の主担当のリーダーから、見どころとスケジュールの説明の後、5 つの班に参加者を振り分け、担当リーダーが紹介されました。1 人のリーダーに対して、参加者５～6 人になるように設定されています。そして 5 班のうち 1 班は、幼児から小 5 までのお子さん連れのグループ（6 家族 13 人）で、私はこの親子連れのグループに同行することにしました。

公園入口までの間、緑道ではドバト、ヒヨドリ、シジュウカラ、ヤマガラ、ハシブトガラスが次々と姿を現し観察しました。参加者は、慣れない手つきで双眼鏡を扱いながら、野鳥の大きさや質感などを近い距離で体験しました。気が付くと、公園の入り口に到着したのは開始から 40 分を過ぎていました。緑道でたっぷりと双眼鏡の扱いを練習したことで、その後公園内に入ってから本格的に野鳥を観察し始めた参加者の皆さんは、苦も無く双眼鏡を使いこなして観察を楽しんでいらっしゃいました。

■台風 21 号の影響■

今年の夏、近畿地方を直撃した台風 21 号により大阪市内の緑地は大きな被害を受けました。服部緑地は他と比べると被害は少ない方だとのことですが、通行に支障がないところは倒れたまま放置してあり、当時の惨状をうかがい知ることができます。台風が接近したほんの数時間の間にこれだけの倒木被害があったというのは信じられない光景です。

▲公園の手前の緑道で観察する参加者

今後の話ですが、大木が倒れると林内に光が差し込み、植生や物理的な空間に大きな変化が予想されます。その変化は、野鳥の生息状況にも少なからず影響を及ぼすでしょうから、定例探鳥会や野鳥のセンサス調査などでその変化をモニタリングしていくことが大切ではないかと思いました。

池では、アオサギ、カイツブリ、ハシビロガモ、バン、オオバンなどの水鳥が観察できました。カワセミが、「キー」という鳴き声とともに池を横断していきました。台風の前までは、カワセミは池のほとりの見やすい場所の枝にとまることも多かったそうですが、現在では止まり木になっていた枝がなくなってしまい、池を横断した後はやぶの中に入ってしまうそうです。池の外見上気が付かないほどの小さな環境の変化で、野鳥の行動にも変化があるという示唆は興味深く感じました。

■子どもたちの様子■

親子連れグループの中の 6 人の子どもたちは、いずれも鳥への関心が高く、リーダーの話に聞き入っていました。その中で 2 人の子が望遠のデジカメで鳥を撮影していました。小学 4 年生の男の

子は、電車の撮影から入り、次第に鳥にも興味がでてきたそうです。そこでまず一人で鳥の撮影を始めたところ自分だけでは探せず、支部の探鳥会に参加しはじめたそうです。カメラを入り口にバードウォッチングを始める方が増えているのは、大人だけではないのだなということが実感されました。この男の子は、探鳥会でも次々と野鳥を撮影して、カメラのモニターをその場にいた参加者に見せて場を盛り上げてくれていました。

別の親子連れのお母さんは、実は30年前に会員で探鳥会にもよく参加していたとか。仕事と育児で余裕がなくなり一時中断したそうですが、今回お子さんが野鳥に興味を持ったので久しぶりに参加してみたそうです。この方、離れていた間も、大阪南港野鳥園存続の署名を知り合いに呼び掛けたり、影ながらできる範囲で活動に協力してくださっていたそうです。今回は探鳥会に参加して親子で楽しめたので、また会員になりたいとおっしゃっていました。

もう一組の親子は、琵琶湖を訪れたときに野鳥が見られるカフェで小冊子プレゼント葉書が置いてあるのを見て、その葉書で小冊子に申し込んだのがきっかけだったそうです。それから普及室から、探鳥会の案内が来るようになり、今回は自宅から近いので参加してみたとのこと。妹親子も誘っての参加でしたが、双眼鏡で見た野鳥の世界に感動されたそうです。鳥が現われるときは、次から次へとひっきりなしに出てきて、見るのが追いつかないくらいでしたが、妹さん親子ともども楽しかったそうです。また来たいとおっしゃってくださいました。

■子どもの集中力を取り戻す■

開始から2時間を超えると、さすがに子どもたちの集中力が切れてきます。鳥の解説をするリーダーをよそに、枯れ枝を集めたり、追いかけっこをして遊ぶ子が出てきました。子どもたちの動きがばらばらになってくると、リーダーの目が届かなくなってきます。ましてや探鳥会の後半はリーダーも疲労して注意力が落ちています。こういう時、ケガや事故のリスクが高くなります。

とはいえ焦って大きな声を張り上げても子どもたちの集中力は戻ってきません。そこで今回は、リーダーの機転により、集中力が切れてきたあたりでカエデの種を飛ばして遊びました。すると小さな子が

「お母さん、一緒にやろ！」

と声をかけて種飛ばしに熱中し始めます。また、私も草笛を披露してみました。子どもたちに吹き方を教えたら、何人かの子はすぐにその場でできるようになりました。子どもを対象とした探鳥会の時、空気が乱れてきた時にパッと雰囲気を変えられるアクティビティがあると、再び子どもたちの集中力が戻ってきます。

■バーディ探鳥会へ■

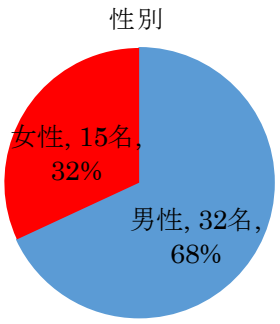
今回の探鳥会の締めくくりには、大阪支部で実施している「バーディ」という探鳥会のPRが行われました。「バーディ」は、大阪支部が2008年から実施している親子探鳥会です。バーディでは、子どもが中高生になるとサブリーダーとしてして、リーダーのお手伝いをしてもらい、やがて大学生になるとサブリーダーからリーダーになるそうです。子どもからユースを経て大人へという具合に、成長の度合いに応じた連続した受け皿をもっているのはさすが大阪支部だと感心しました。

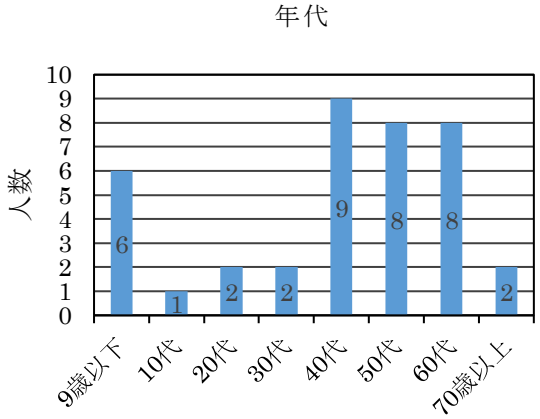
現在バーディでは3名のサブリーダーが育っているそうですが、引き続きサブリーダーや、リーダーが育ってくることが期待されていました。

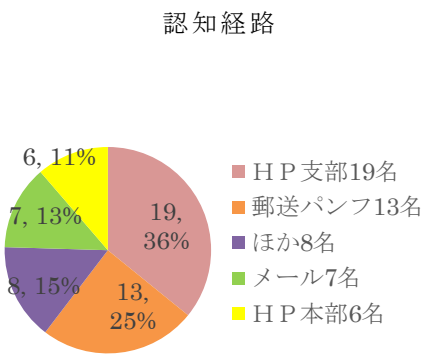
今日の参加者も、親御さんがバーディに興味を示していたのでうまくいけばつながってくれるのではないかと思います。ひょっとしたらその中から、未来のリーダーが生まれてくるかもしれません。今回は探鳥会全体としてお試し入会がなく、事務局やリーダーの方々も少し残念そうでしたが、次につながる探鳥会だったと思います。

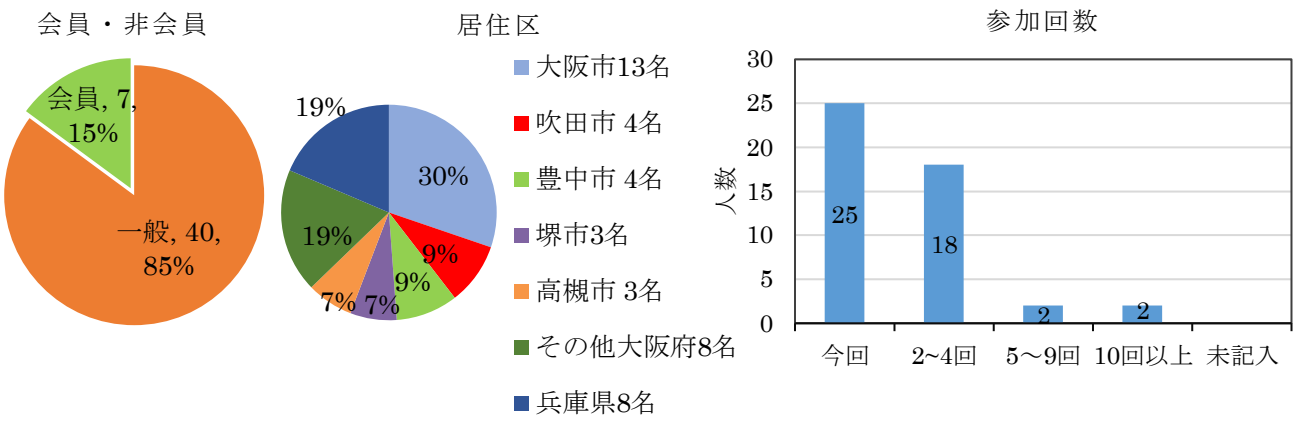
（普及室／箱田敦只）

■探鳥会データ■









『はじめてのバードウォッチング in　甲南の里山』（滋賀）

【日時】2018年12月8日（土）9:00～12:00
【天候】晴れ
【場所】甲南の里山（甲賀市甲南町）
【参加者】30名（一般25名、会員5名）
【リーダー】4名、財団職員1名
【広報】
＜インターネット＞支部HP／Facebook、財団HP／Facebook／twitter
＜メール＞一斉メール送信（10/1～5、全国約60,000名に送信）
＜チラシ＞「探鳥会のご案内」（10月初旬から全国約65,000名に送付）
＜新聞＞　京都新聞（掲載日不明）
＜その他＞甲南第三小学校校長先生がオリジナルチラシを230部作成、校区内宮地区全戸に配布してくださいました。

■探鳥会概要■
　日本野鳥の会滋賀の初心者向けバードウォッチングへの取り組みも3期目を迎え、広報・参加対象が広範にわたる従来の開催内容とは違う視点で企画されました。
　今回の探鳥会の集合・まとめ会場の甲賀市立甲南第三小学校は滋賀県の愛鳥モデル指定校で、熱心に愛鳥活動に取り組まれていらっしゃいます。毎年の野外観察授業には日本野鳥の会滋賀から講師を派遣するなど数年来のご縁を結ばれています。長年の地道な活動の結果として子供、先生方、保護者を中心に校区そのものが自然・環境保全指向のポテンシャルの高い地域になっていると言え、学校の授業の枠から一歩踏み出して地域住民を対象に初心者向けバードウォッチングを開催してみようとの試みです。
　小学校を起点に丘陵地、川辺、住宅地、ため池を順にたどる3kmあまりのやや起伏のあるコースです。途中、工事現場横の通過や道路脇での観察があり安全への配慮が不可欠でしたが、先生方が積極的にかかわって下さりスムーズな運営ができていました。
■受付の様子
　小学校体育館の玄関前に長机一台を設置して受付を行いました。受付名簿記入、資料配布、参加費集金、双眼鏡貸し出しとやることが多く、一台の机では手狭に感じました。カード式名簿を導入して間がなく効率の良い受付方法を試行錯誤の段階だと思いますが、記入済み名簿・参加費と引き換えに資料を渡すことで混乱や参加費の集金漏れを防ぐ工夫をされていました。台紙・クリップ・筆記用具を多めに用意いただくと、少ないスタッフ数でもさらにスムーズな受付が実現できるのではないでしょうか。
■探鳥会の様子■
　昨年度までの反省点から、支部で携帯マイクを購入されたとのこと。最初のオリエンテーションでもリーダーの声がクリアに参加者に届き

ます。スタッフ紹介、お試し入会の簡単な紹介の後、今日のコース上の危険個所を伝えます。観察のコツや双眼鏡の使い方を丁寧に説明していよいよ出発です。

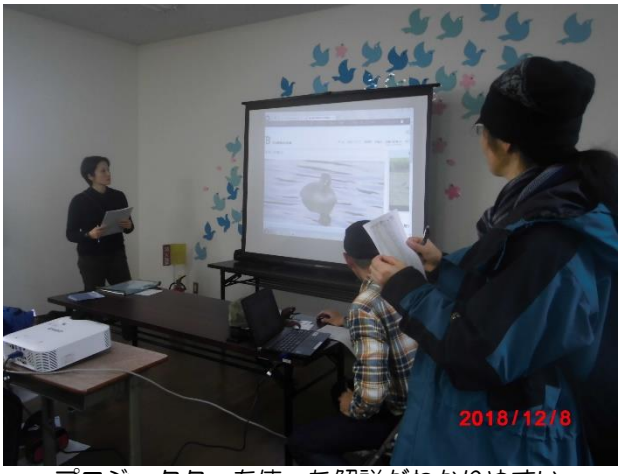
今回の探鳥会は、財団提供の貸し出し用双眼鏡に加えて甲南第三小学校備品のスコープ6台もお貸しいただき、観察機材にたいへん恵まれました。ため池ではたくさんの水鳥や枝にとまるノスリが見られましたが、池のすぐ脇を道路が通っており安全のために道を隔てた歩道上からしか観察できません。ここでたくさん用意できたスコープが大活躍しました。スコープで観察する参加者からは

「カモってとってもきれい！」

「ノスリかっこいい。こんなところでも見られるんだね」

と感嘆の声が出ました。水鳥や猛禽など大型の鳥をしっかりと観察でき参加者は大満足です。

小学校に戻り最後のまとめをします。PCとプロジェクターを使用して、写真を示したり滋賀のホームページ内の情報の検索の仕方のデモも盛り込み、分かりやすく工夫してあります。支部の活動紹介、お試し入会のお誘いをして和気あいあいと探鳥会が締めくくられました。



プロジェクターを使った解説がわかりやすい

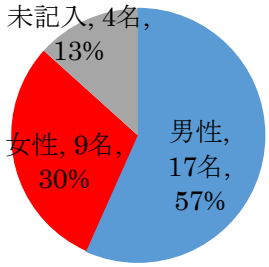
■まとめ■

中核の教育施設を擁する地域に対象を絞って参加者を発掘しようとするとてもユニークな試みです。子どもたちの育ちの過程で避けられない中高生時代の探鳥会離れ対策のヒントが隠れているかもしれません。講師派遣などで学校との連携に取り組む他の支部の方々にも今後注目していただきたい事例です。

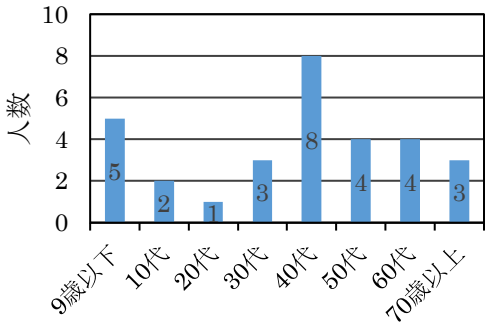
（普及室／浅野綾子）

■探鳥会データ■

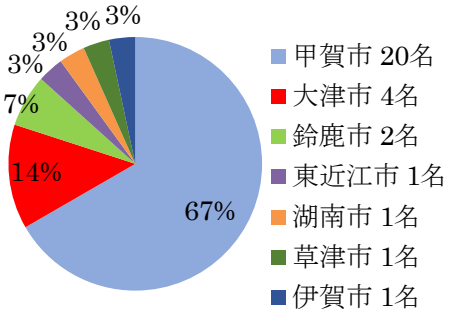
性別



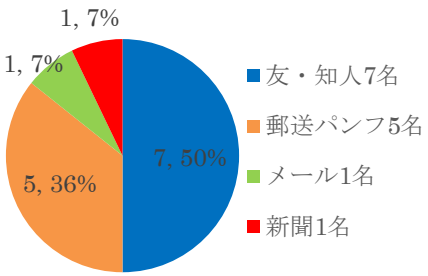
年代



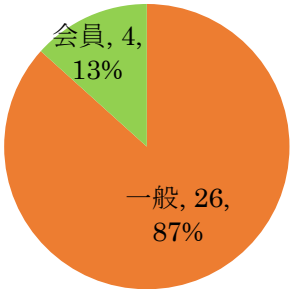
居住区



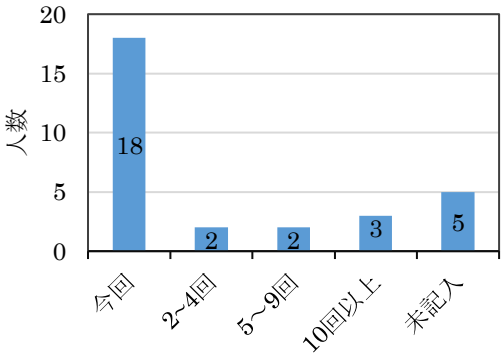
認知経路



会員・非会員



参加回数



◆普及室からのお知らせ

■「探鳥会リーダーズフォーラム in 東北」お申込みありがとうございました！■

昨年よりお知らせしておりました「探鳥会リーダーズフォーラム in 東北」が定員に達したため締切となりました。お申込みありがとうございました。

6 回目を迎えた今回は、初の東北開催。ブロックや支部を超えた日本野鳥の会の探鳥会リーダーの皆さんが一堂に会す貴重な時間になりそうです。ここでは開催の報告を後日掲載致します。

◆探鳥会保険集計結果（2018 年 11 月分）

11 月は 72 支部からご報告をいただき、計 298 回の探鳥会が開催され、のべ 8,049 人が参加されました。

表 2. 11 月の探鳥会保険集計結果（2018 年 12 月 15 日現在）

支部	開催回数（回）	参加者数		スタッフ数（人）	合計人数（人）
		会員（人）	非会員（人）		
オホーツク支部	2	40	18	2	60
根室支部	3	10	15	8	33
釧路支部	2	16	26	5	47
十勝支部	–	–	–	–	–
旭川支部	0	0	0	0	0
滝川支部	1	10	4	3	17
道北支部	1	1	11	3	15
江別支部	0	0	0	0	0
札幌支部	2	81	33	5	119
小樽支部	2	8	6	2	16
苫小牧支部	–	–	–	–	–
室蘭支部	1	13	2	3	18
函館支部	0	0	0	0	0
道南桧山	2	13	7	4	24
青森県支部	–	–	–	–	–
弘前支部	2	19	0	2	21
秋田県支部	3	46	7	5	58
山形県支部	5	39	10	8	57
宮古支部	–	–	–	–	–
もりおか	1	22	7	4	33
北上支部	2	13	19	4	36
宮城県支部	5	106	60	11	177
ふくしま	2	49	0	4	53
郡山支部	1	16	0	3	19
二本松	–	–	–	–	–
白河支部	1	0	1	3	4
会津支部	2	14	5	3	22
奥会津連合	–	–	–	–	–
いわき支部	1	21	3	1	25
福島県相双支部	–	–	–	–	–
南相馬	–	–	–	–	–
茨城県	10	96	67	13	176
栃木県支部	15	300	63	43	406
群馬	13	126	91	42	259
吾妻	2	28	6	4	38
埼玉	13	416	91	89	596
千葉県	10	147	83	46	276
東京	13	556	31	66	653
奥多摩支部	8	134	32	26	192
神奈川支部	12	257	126	53	436
新潟県	5	163	44	13	220
佐渡支部	–	–	–	–	–

富山	2	45	9	5	59
石川	3	42	16	7	65
福井県	1	14	5	1	20
長野支部	3	58	10	5	73
軽井沢支部	1	11	3	1	15
諏訪支部	1	3	6	7	16
木曽支部	-	-	-	-	-
伊那谷支部	0	0	0	0	0
甲府支部	1	33	3	2	38
富士山麓支部	1	7	3	2	12
東富士	-	-	-	-	-
沼津支部	1	13	3	2	18
南富士支部	3	70	60	15	145
南伊豆	1	8	1	2	11
静岡支部	2	23	8	5	36
遠江	2	67	7	8	82
愛知県支部	14	194	124	38	356
岐阜	-	-	-	-	-
三重	4	28	7	6	41
奈良支部	5	123	39	11	173
和歌山県支部	1	1	8	4	13
滋賀	7	59	61	18	138
京都支部	9	168	66	31	265
大阪支部	21	444	98	101	643
ひょうご	5	112	116	14	242
NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	3	28	16	3	47
島根県支部	2	16	11	2	29
岡山県支部	5	116	37	14	167
広島県支部	-	-	-	-	-
山口県支部	5	33	14	5	52
香川県支部	2	74	36	3	113
徳島県支部	6	95	16	6	117
高知支部	-	-	-	-	-
愛媛	5	90	15	8	113
北九州支部	5	84	6	5	95
福岡支部	8	111	24	18	153
筑豊支部	4	64	7	4	75
筑後支部	5	28	7	10	45
佐賀県支部	3	69	33	5	107
長崎県支部	-	-	-	-	-
熊本県支部	5	95	48	9	152
大分県支部	3	41	14	4	59
宮崎県支部	2	33	12	2	47
鹿児島	3	60	35	10	105
やんばる支部	-	-	-	-	-
石垣島支部	-	-	-	-	-
西表支部	2	1	3	2	6
全国	298	5321	1855	873	8049

備考：-は保険の申請がなかったことを示しています。

（普及室）

◆今月の購読者数

探鳥会スタッフ通信１月号の電子メール版の購読者数は、先月と同じ847名です。各支部の購読者数は、「財団からの配信者数」と「支部からの転送による配信者数」の合計です。

表３．探鳥会スタッフ通信１月号電子メール版の購読者数（2019年１月16日現在）

支部	購読者数
オホーツク支部	6
根室支部	0
釧路支部	2
十勝支部	1
旭川支部	3
滝川支部	1
道北支部	1
江別支部	0
札幌支部	5
小樽支部	3
苫小牧支部	2
室蘭支部	5
函館支部	0
道南桧山	1
青森県支部	1
弘前支部	5
秋田県支部	4
山形県支部	4
宮古支部	1
もりおか	4
北上支部	2
宮城県支部	39
ふくしま	5
郡山支部	1
二本松	1
白河支部	2
会津支部	2
奥会津連合	0
いわき支部	1
福島県相双支部	0
南相馬	0
茨城県	22
栃木県支部	59
群馬	24
吾妻	1
埼玉	39
千葉県	24
東京	68
奥多摩支部	48
神奈川支部	25
新潟県	2
佐渡支部	1
富山	2
石川	29
福井県	11

支部	購読者数
長野支部	1
軽井沢支部	1
諏訪	7
木曽支部	1
伊那谷支部	1
甲府支部	4
富士山麓支部	0
東富士	0
沼津支部	3
南富士支部	3
南伊豆	2
静岡支部	2
遠江	9
愛知県支部	44
岐阜	6
三重	19
奈良支部	3
和歌山県支部	5
滋賀	20
京都支部	31
大阪支部	27
ひょうご	15
NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	10
島根県支部	13
岡山県支部	28
広島県支部	9
山口県支部	16
香川県支部	6
徳島県支部	6
高知支部	1
愛媛	15
北九州	11
福岡支部	12
筑豊支部	21
筑後支部	5
佐賀県支部	5
長崎県支部	1
熊本県支部	14
大分県支部	4
宮崎県支部	4
鹿児島	3
やんばる支部	0
石垣島支部	1
西表支部	1
合計	847

（普及室）

◆探鳥会スタッフ通信（電子メール版）の無料配信について

探鳥会スタッフ通信は、支部の探鳥会スタッフならどなたでも受信できます。（無料です）

ご希望の方は、「探鳥会スタッフ通信希望」と明記のうえ、①支部名 ②担当している探鳥会名 ③お名前 ④ご住所 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス（パソコンやスマートフォンのアドレス）を記入し、tancho-staff@wbsj.org へお申し込みください。バックナンバーとともにメール版を送信いたします。

配信を希望されない、メールアドレスの変更などについても、tancho-staff@wbsj.org までお知らせください。

★編集後記

今月は「初心者向けバードウォッチング特集」でした。やっていることはみな同じ探鳥会なのですが、集客、リーダーの育成、子ども対応、入会勧誘、リスク管理など、探鳥会によって課題がそれぞれ異なっています。みなさんの抱えている課題と共通するものがありましたら、ぜひ普及室まで感想などお送りください。

（普及室／箱田敦只）

日本野鳥の会

探鳥会スタッフ通信　第70号

◆発行

（公財）日本野鳥の会　2019年1月17日

◆担当

普及室　普及教育グループ

〒141-0031

東京都品川区西五反田3-9-23丸和ビル

TEL：03-5436-2622

FAX：03-5436-2635

E-mail：tancho-staff@wbsj.org